

平成28年度第2回御前崎市総合教育会議議事録

日 時 平成28年10月14日（金）
午前9時30分～11時00分
会 場 御前崎市役所 302会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育委員長あいさつ
- 4 協 議
 - （1）御前崎市のスクラム教育について
 - （2）浜岡中学校改築検討委員会について
- 5 閉 会

御前崎市総合教育会議委員

職 名	氏 名	備 考
市 長	柳 澤 重 夫	
副 市 長	鴨 川 朗	
教育委員長	吉 村 勝	
教 育 委 員	伊 藤 博 之	
教 育 委 員	田 代 富 美 子	
教 育 委 員	紅 林 幸 枝	
教 育 長	篠 田 暁 美	

事 務 局

職 名	氏 名	備 考
教 育 部 長	伊 村 衛	教育総務課長兼務
総 務 部 長	植 田 直 仁	
市 民 部 長	河 原 崎 悦 男	
総 務 課 長	増 田 正 行	
学校教育課長	長 谷 川 延 明	
社会教育課長	村 松 学	
教育総務課 課 長 補 佐	河 原 崎 聡 信	

1 開 会

○司会 それでは、みなさんおはようございます。

最初に、挨拶を交わしたいと思います。ご起立をお願いいたします。

(起 立)

○司会 よろしくをお願いします。

(相互に礼)

○司会 ご着席ください。

それでは、お忙しいところ本日はありがとうございます。平成28年度の第2回御前崎市総合教育会議を開催をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

2 市長あいさつ

○司会 それでは、開会に当たりまして市長からご挨拶をお願いしたいと思います。

○市長（柳澤重夫） 皆さん、おはようございます。秋の刈り取りもほぼ終わりました、朝夕はめっきりと涼しいといえますか、寒いくらいの気候になりました、秋本番といった感じがします。また、きょうは教育会議ということで、大変お忙しい中をお出かけいただきましてまことにありがとうございます。また、皆さんには日ごろから教育行政につきまして本当に熱心に活動をしていただきまして、本当に感謝申し上げます。

今ここにもありますようにスクラムスクールプラン、スクラム御前崎につきましても先進的な取り組みをなさってくださいっておりまして、本当にうれしく思っております。特に皆さんには浜中ですね、浜中の改築検討委員会、こういったものにつきましても大変なご苦勞をかけて、本当に心から感謝を申し上げます。また、18日にも議会のほうで一般会計、予算決算の会議があるということもお聞きしております。私も浜岡中学校、何とか了解を賜って早期に建設をしたいと思っております。そういった中でのレイアウトをつくるにつきましても、今の校舎、体育館、プール、こういったものをどういった方向でやっていくのか、こういったことも大きな課題でありますので、18日の会議にはぜひともそういった皆さんの思い、また私の思いを伝えていただきまして、しかるべき方向をとっていただければ大変ありがたいと思っております。

私も教育ですね、人づくり、これは御前崎市のどんな施策よりもまず第一に考えていきたいと思っておりますので、これだけは皆さんにもぜひとも自信を持ってやっていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。一言ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

3 教育委員長あいさつ

○司会 それでは、引き続きまして吉村教育委員長からご挨拶をお願いいたします。

○教育委員長（吉村 勝） 改めておはようございます。大変お忙しい中を市の執行部の皆さんにお集まりをいただきまして、第2回の総合教育会議が開かれ大変ありがたく思っております。日ごろは、それこそ教育のことにつきましては、皆さんに支えていただいているということを非常に実感しております。そういう中で、教育委員会はスクラム御前崎ということで今まで取り組んできているわけですが、そういう中で、学校や園をつなげて教育をしていこうという意識が大変高まってきているなということを感じて、大変うれしいなと思いますし、ただこの間、各自治会の自治会長さんの代表と移動教育委員会をやって、そこでいろいろお話し合いをさせていただいた中に1つ課題として、PTA等の動きをもう少し出したらどうかというようなご意見もいただきまして、なるほどな、そこが

よっと薄かったのかなという、そんな反省を持ちました。いずれにしても、一気にそれがスクラムが動いていくということにはなりません、着実に前へ進んでいきたいと、こんなふうに思っております。

それから、特にここのところ浜中の改築検討委員会のことにつきましては、ご理解をいただいたり、あるいは若干ご迷惑をおかけしているようなこともあるのかなと、そんなことを感じておりますが、ぜひまた今日も2つ目の話し合いの中に入っておりますので、ご指導、ご示唆をいただいて進めていけたらいいなと、このように思います。よろしくお願いします。

○司会 ありがとうございます。

3 協議

(1) 御前崎市のスクラム教育について

○司会 それでは、引き続き協議のほうに移らせていただきたいと思います。

まずは、御前崎市のスクラム教育についてということで、御前崎市教育委員会が進めておりますスクラム教育につきまして、その実績ですとか進捗状況、あとは成果等につきまして篠田教育長から説明をしていただきますので、よろしくお願いいたします。

○教育長（篠田 曉美）〔プレゼンで説明〕よろしくお願いいたします。第1回の総合教育会議では市長さんから、学校、園だけでなく地域、家庭、企業にまで踏み込んで、御前崎の子どもはすごいと思われるようにしてほしいというご示唆をいただきました。教育委員会としましては、これまで具体的に何をしているかということをお今日ご報告し、今後具体的にそれに向かって予算も含めてどうしていくかというご示唆をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。今回は、特に学校、園のスクラムスクールプランについてご報告をいたします。

1枚目にスクラム御前崎の全体構想図をお渡ししましたが、その一番下の具体策、施策2、スクラムスクールプランで推進する子供の育成と、施策1、スクラムで推進する御前崎の教育、この2つが学校、園に関係します、そのことについてご報告します。

まず、1つ目の基本施策2、スクラムスクールプランで推進する子供の育成につきましては、ここに5つ掲げてありますので、ここについてご報告いたします。基本施策1につきましては2つ、コミュニティースクール及び移動教育委員会についてお話をします。

それでは、基本施策2の園、小学校、中学校、高校までの途切れない教育を目指してということで、御前崎型の小中一貫教育的スクラムスクールプラン、これについてご説明します。これまで園でのスクラム研究会を2園、小学校でのスクラム研究会を2つの小学校、中学校でのスクラム研究会を先週終わったばかりで、2つの中学校、それから各園、各小学校、各中学校で奈須先生の指導、1回から多い学校で4回奈須先生に来ていただいて、それぞれの学校でご指導いただいています。1番から4番までの授業研究を通して、ここに園の研究会であっても小学校、中学校、高校が参加し、小学校の研究会でも他校が参加するという、多い人で何回も他校、他園に出かけて研修を積んでまいりました。特に、③番の中学校でのスクラム研究会は、せんだって5日の日に御前崎中学校、6日の日に浜岡中学校で行いまして、特に6日の浜岡中学校におきましては、池新田高校が午後を全部カットしていただきまして、池新田高校の校長先生をはじめ全ての教員が浜岡中学校に参加していただき話し合いを持ちました。そのほか5番目のスクラム全体講座につきましては、先ほど出ていました人間関係プログラムの岡田教授に来ていただきまして、これも園、小、中、高までの先生の講座を行い、人間関係について岡田先生から学ぶことができました。また、教師の灯台村塾としましてスクラム分散講座、英語、ICT、食育、海洋スポーツ、エネルギー講座、掃除講座、特別支援教育講座、こういった多種多様な分散講座を設けました。そのほか各学校では、奈須先生のみならず立教大の黒澤先生、これは算数、数学です。鳴戸教育大の久我教授、この先生は学校経営、生徒指導部門です。各学校ではこうした方々を、奈須教授以外にそれぞれの部門で呼んでこれまで研究を重ねていっていると

ころです。他市においてもこれだけの大学の先生をお呼びするという事は余りないので、そこは本当に予算をつけていただいて、うらやましがられているところです。これがせんだっての水曜日に行われました浜岡中学校の研究会の様子です。中学生が勉強しているところを園も小も中も高も全部見て研究会を行いました。その後分散講座を行いました。

その感想なのですが、それぞれの特徴が出ておりますので、少しご紹介します。園の先生は、どの年齢の子供であってもやはり生きていく力をつけていく必要があると、幼児期においても今後コミュニケーション力をつける力をもっと研究する必要があると感じた。小学校の先生は、やはり池新田高校の先生の話がよかった。その話は、池新田高校は36%が浜岡中学校、それから19%が御前崎中学校が進学し、全体の55%が池新田高校に行っている。そのうちの85%が市内に残るということです。ただし、池新田高校の先生方も大変生徒指導に苦勞している状況で、御前崎市の子どもが半数以上いるのですが、大変生徒指導に苦勞しているということを聞いております。ですが、ここ10年ぐらいですか、遅刻が大変減ってきたというのは、幼保、小中の教育が少しずつ変わってきているのではないかと、そのスクラムが生きてきているのではないかと、ことを言われました。しかし、勉強については、中学校同様大変苦勞なさっているということでした。

この小学校の先生が池新田高校のこういった話を、各分散会に二、三人ずつ高校の先生が入っていただきましたので、詳しいことを聞くことによって小学校できちんとできていないことや、きちんとできていない態度が結果的に就職にまで影響を及ぼすことを感じた。今日聞いた高校生ができない算数の問題を、やっぱり小学校でももっとしっかりやる必要がある。中学校の先生は、浜岡中学校が正直言いまして今まで授業を研究するということができませんでした。授業を見ても授業について、そこがよかったあそこがよかったという分散会は、私も何年も出ていますけれども、全くできませんでした。しかし、ここ2年ぐらい子供たちと先生方が本当に努力してくださって、せんだっての分散会では授業について話すことができましたので、中学校の先生からこのような反省がたくさんありました。「小学校、高校の先生方からたくさんのご指導をいただきました。それぞれの視点からどのような工夫ができたのかを改めて反省し考えることができました。とてもよい時間になりました。」と、やはり授業について受けとめ、授業を変えなければという、これは国語の先生です。

一方、高校の先生は、「小学校、中学校の取り組みを知ることができ、高校で起きていることの必然性を感じてしまいました。協力をして、大人がまずはスクラムを組み共通意識を持つことが重要だと感じました。これからもよろしくお願いします。」ということで、池高の先生からは、「こういった会をもっと引き続きやってほしい。」という感想がいっぱい出されました。こうしたことから、やはりスクラムで園小中高が揃ってこうした授業研究を何回も行っているということは、じわじわとではありますが、それぞれの問題点を感じ、それぞれがもう一度学校、園に戻って、上を見て見直していくというよい効果が表れているのではないかなと思います。

一昨日、教育委員の研修視察を富山市の芝園小中学校、それから堀川小学校に行っていました。やはり特に芝園小中学校は、建設の関係ですばらしい建築をされているので見てきましたが、堀川小学校は、大正の4年から始まる授業研究が行われている伝統校です。しかし、その先生方の姿を見たとき、先生方のすばらしい挨拶の態度で、やっぱりもう一度気を引き締める、そこから教師が変わらなければ子供たちは変わらないのだという思いを強くいたしました。子供たちの姿も、やはり御前崎市の子と違って、立ち止まって礼をする、あるいは言葉遣いも先生に対して大変失礼ではない。こうした文化は今すぐにできるものではないのですが、大人が変わらなければできないのではないかなと思っています。

この写真は、教師のスクラム分散講座で、夏に行いましたが、お寿司の大将、それから特別支援教育、これは袋井の分校の先生に来ていただきました。それからマリンスポーツ。さまざまな講座を通して御前崎を知ることと、それから自分の不得意なところを学ぶということで行っています。

次に、これは小学校の4、5年生が今マリンスポーツ体験を全小学校で実施することが本年度初めてできました。堀川小学校、芝園小中学校におきましても、立山が富山市にありますので、堀川小学

校は、今から5年生が何とか山に登山靴で登り、来年になったら立山を登ると。芝園小学校も立山を登る。全部で10時間かけて登るという。富山市においても、全国学力調査が大変上位にいつも占めているのは、特別なことはしていないと。こうした御前崎市ならではの、富山市ならではのことを経験させて根性を身につけて忍耐力を身につけている。やっぱり御前崎市もこのマリンスポーツという良さを知って、もっともっとこれが、では6年になったらもう少しとか、少しそういったことを広めていく必要があって、今まで当たり前の教育をしているのではなくて、御前崎市の良さを知る教育という体験をする必要があることを強く感じました。

この写真は、子ども灯台村塾で、中電の方々によるエネルギー教育の一環です。

それから、右側はおやつづくりということで、パティシエの方に来ていただいて料理教室を行っています。

こうしたことだけではなく、全体としてマリンスポーツとか、そういう御前崎市ならではのことをもっとやる必要があるということを富山市に行ってまた強く感じました。

それから、このスクラムから生まれた園、小学校、中学校の合同引き渡し訓練です。これまでそれぞれ別々に行っていたのを昨年度より園、小学校、中学校が同時に引き渡し訓練を行うことで、実際に引き渡しを行う有事が発生した場合を想定し、特に御前崎中学校側では、保育園に行って小学校に行き中学校に行くという家族もいらっしゃいますので、そういった引き渡し訓練を合同で行う。これはスクラムから生まれてまいりました。

基本施策1です。今までは教師に対してですが、今度は市長さんが言われた地域とのPTAとこの試みということで、御前崎型コミュニティースクールを立ち上げています。中学校区指定で園や学校の抱える課題を家庭や地域とともに共有し対策を考えていく。これまで第3回まで行ってまいりました。その中のこの写真は、スクラム運営協議会の写真です。今現在出ていることとしては、やっぱり大人が変わらなければ変わらない。それから、地域の方々からは、もっと地域に情報を発信してほしいと。情報が無い、何かもっと地域に頼んでくれればいいというような意見が出ていまして、第3回目にこの横浜市の東山田中学校の竹原さんというコーディネーターの方をお呼びして講演会を行いました。100人ぐらいの方が来てくれて、PTAの方も来ていただきましてこの講演を行いました。竹原さんもここへ来るまでにやっぱり10年掛かったと。東山田中学校のコミュニティースクールがちゃんと立ち上がるまでには10年の月日を要しましたよということですので、御前崎市はまだ3年しかたっていないので、まだまだかなと思いますが、これに刺激を受けましてPTAの方々、地域の方々からは、もう学校単位でいろんなことを行わせてほしいという要望が出ています。第4回を10月に行う予定です。この写真は、そこから生まれたスクラムグッドマナー運動です。中学生の意見が園や学校から保護者や地域の方へ行っている姿ですが、保護者やサポート隊の方々がいろいろ立っていただいて、こちらの中学校なのですけども、今ここにあらわれていないのですが、実はこの浜中のグッドマナー挨拶運動の10日の日には、池高生がほとんどたくさん来てくれまして、池高も一緒にやってくれているという、なかなか他市では見られない光景が見られている。地域の方々からも、何か浜中生が騒いでいるよという声が少しずつ上がり始めて、ありがたいなと思っています。

次に、先ほど吉村委員長さんからお話がありました、町内会の総代さんたちとの移動教育委員会を行いました。スクラムや学校のことが地域に伝わっていないよとか、地域とのスクラムは難しいよ、どういうふうに地域を巻き込んでいくのかということとか、でも子供には元気をもらう、子供は本当にいいとか声を出す、こちらが声を出せば子供は返してくれるよ。でも、特に老人会のおばあさんの声かけが非常にうまいというのが総代さんたちから出てきました。要望としては、授業でもっと地域の人を使ってほしいとか、老人会をもっと使ったらどうか。祭の花巻きも老人会に頼めばいいのではないかな。若い人たちにばかりやる必要ないのではないかな。老人会の人たちに何で声かけないのだろうかねというように、もう一方この赤いところですが、町内会長は役所のこづかいではないよという厳しいご意見も出ました。一貫して町内会の総代さんたちが言ったのは、先生たちはよくやっていると思うよと。これ以上先生たちに要望とか何とかより、むしろ家庭の問題が大きいという話が出まし

た。先ほど委員長さんからP T Aという話が出ましたが、P T Aを中心に、ここの家庭をどうするかというのがこの市の大きな問題です。地域で子どもを育てようとか、未来に託す子どもをみんなで育てよう、総合計画の第2次の将来像が「子どもたちの夢と希望があふれるまち御前崎」というふうになっているのですが、果たしてそれが市民の人みんなが思っているのか、市役所の人みんながそういうふう子どもに焦点を当ててくれているのか、教育を何とかしようというふう思っているのかということについては、私も多少ちょっと意見を言いたいことがあります。この場ではちょっと控えますけれども、本当にここの子どもたちのことを、市役所ならず市民みんな考えていかないと、池高は50%強御前崎の子が行く、そして85%がここに就職するということを考えると、やはりもっと市を挙げて考えていく必要があるのではないかという思いをいたしています。

それでは、学校教育課長より少し学習状況について報告をいたします。

○学校教育課長（長谷川延明） 学校教育課です。お願いします。

4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果が国から届きました。御前崎市についてですけれども、平成25年、今から4年前ですが、静岡県及び御前崎市は、全国から国語Aが最下位であるというような、衝撃的な結果の中で、御前崎市もこの平均点については、大変全国よりも劣るという、結果がありました。経年で追っていきますと、今年の28年度については、小学校については、全ての教科が全国平均とほぼ同じような、状況になってきております。26年、27年、28年、このスクラム教育を始めて小学校ではかなり上昇をしている。右肩上がりになっているという、結果が見えてまいりました。中学校については、年によっては差があるものの、同じような形で平成28年度については、国語のBについては全国平均、国語のA、数学Aについては若干劣る。数学Bについては少しまだ劣るという、形になっています。小学校のこの右肩上がりの様子を、先ほどのスクラム研究会の中で中学校の教員や高校の教員が、これは小学校のおかげで授業や生活がよくなっているということを話しています。これは、他市や他の町での小中の会議を開くと、必ずここは小学校がよくないものだから中学校でだめになってしまうのだよねと。何で小学校でよくしたものを中学校でだめにしてしまうのという、お互いに悪く言い合う、そういう風潮が小中の中ではあるのですけれども、御前崎市の教育の中では中学校の教員が、この子どもたちの姿は小学校のおかげである、それを自覚して授業や生徒指導をしっかりしていかなければならない、そういうような声がたくさん上がっていることが本市の教員たちの姿だというふうに思っております。

それにつけ加えて、この学力調査ではいろいろな質問を子どもたちにしております。市長さんがよく人間性を、豊かな人間性のある子どもを育ててほしいという、話がありますけれども、全国平均のポイントよりも上か同等のものについては、学校に行くのが楽しい、学校で友達に会うのが楽しい、学校では好きな授業がある、学校の決まりを守っている、自分には良いところがある、人が困っているときは進んで助けている、今住んでいる地域の行事には進んで参加している、これらは全国平均よりも上、もしくは同じような状況になっております。気になることが、家庭での生活です。1日2時間以上携帯電話やスマホ、インターネットを使っている児童生徒の割合は、全国よりも10%以上多いです。これが経年で見ますと、2時間以上やっている子供たちの数がどんどん、どんどん上がってきています。全国でも上がってきてはいると思うのですが、それ以上に御前崎市の子供たちは上がっているという、そういうことがあります。

また、あんな立派なアスパルという図書館があるにもかかわらず図書館へ通うという子どもたちの割合は、全国よりも10ポイントぐらい低くなっていますし、新聞を週1回以上読んでいるという、子どもたちも7ポイント低いということになっています。これらは、やはり先ほどの教育長の話にあったとおり、家庭とのスクラム、地域とのスクラムを組みながら何とか変えていかなければならない。学校のやっていることをさらに向上させていくためには、地域や家庭の協力が不可欠であるということが見えるのではないかなというふうに思っております。

以上です。

○教育長（篠田曉美） 以上です。

○司会 ありがとうございました。

これまでの御前崎市のスクラム教育の実践ですとか成果、そういったものを発表していただきました。ここからは、基本的には自由な意見交換ということで進めていただきたいと思いますけれども、まず報告いただきまして、ご感想あるいはご質問等がございましたら、市長お願いできますでしょうか。

○市長（柳澤重夫） 今教育長はじめ先生のおっしゃるのを聞いていて、中学校から高校へ行くほど悪くなっていくようなお話も感じたわけですが、基本的には昔から言われるように、幼児教育、児童教育、こちら辺が本当に人間形成をつかさどる上で本当に一番大事なときだと思う。それがあればもう中学校、高校へ行ってもある程度の復元力といいますか、もとへ戻る。仮にその悪いほうへ引っ張られをしてもそういった復元力が生まれると思うのだよね、ある程度の年になってくると。だから、それが幼児教育と児童教育か、こちら辺が一番大事な形成のときにそういったものを放っておくともう直らないと思うのだよね。家庭教育でもそう、地域でもそう、学校でもそう。だから、そういった意味で、いつも徹底的に児童教育というか小学校の。これを本当に先生と生徒が、教育というのは信頼関係の上に成り立っていると思う、先生と生徒との信頼関係と尊敬、先生に対する尊敬、こういったもので教育というのは成り立っていますよね。でないともう今子供たちと先生が友達みたいな関係になっている気がする。それでは絶対いけないと思うよね。だから、そういった先生と子供たちがいい信頼関係の中でやっていく。そのかわり教師は教育に対する情熱というか、先生の情熱でしかないと思うのです、教育に対する。そういったものを本当にしっかり持ってやってもらう。これしかないと思う。

そういった中で、家庭教育、地域教育、地域にもそういった教育の宝庫だと思うのだよね、お年寄りもいるし、みんないる。そういった人生経験豊かな人がいる。そういったものも学校のカリキュラムの中に取り入れてもらえれば、ある程度人間性というか生き方というか、そういったものも少なからず子どもたちにも教えられるのではないかと。特に、お年寄りが家庭にいる家庭は、お年寄りが、親が言うよりも孫に対してお年寄りが言うほうが、私は効果があると思っています。ぜひとも家庭教育の中で、そういったものをやってもらいたいなと思っています。

そういった意味で、私はこのスクラムスクールプラン、すばらしいことだと思うけれども、文言で、家庭でやるとか地域でやる、地域はこういったことをやってほしいですよ、家庭と市はこういうことを教育にやってほしいですよということを、家庭では社会のルール、マナー、こういったものは、もう家庭で教えるべきだと、こういったものを文言としてやってほしいということで、条例のことを申し上げました。せんだつても池高のほうで退学になった子供がいて、ああいうふうな悪さというか、たばこを吸ったり万引きというか退学になった子もいて、私も校長と話をしたけれども、あまり御前崎の子どもだからあまり言いたくはないけれども、そういったことにならないように、それにはもう遅いと思うのだよ。もう仲間へ入ってしまってもうどうしても抜けられなくなってしまう。だから幼児教育、児童教育、これだけは徹底して先生にも指導してもらう。そういった、篠田さんが先生のとときみたいに、教育長が。そういった怒るときには怒る、温かくするときには温かく接してやる、そうした先生の魅力というか生徒に対して魅力があるなって、そういう先生になってほしいのだよね、私は。それでなければ教育というのは成り立たないと思うのだよね。

いずれにしても、教育というのは昔から難しいもの、これでいいということはないと思っている。昔早稲田の応援歌つくった人が、タケノコのように伸び伸びと育たぬものか人間はということをつたのだよね、昔から。だから、ずっと昔からこの教育というのは難しいと思っている。だから、今回のスクラムスクールプランがいいきっかけなので、それとあわせて節目ってみなすとそれを市民に訴えかけるような、そういった施策をやってほしいと思っている。さっきも言ったように、教育というのは、私は御前崎市の施策がいろいろあるけれども、一番大切なものだと思っている。人間をつくるというのは人間づくりだから。だから、御前崎市の人間が社会に出たときに、国際社会に出たときにすばらしいなと思ってもらえれば、そういった子どもになってほしいと思う。学力もちろん大事だ

けれども、その人間性、こういったものをすばらしいというふうな子供になってほしいと思っています。だから、いろんな体験、私もしたほうがいいと思っている。学力ばかりではなくて。学力はもちろん大事だよ。だけれども、それとあわせて年齢に応じた人間性とか心の豊かさとか、そういった思いやりであるとか、そういったものを年齢ごとに植えつけていくような、そういった教育も必要ではないかと思っているわけで、これから社会を生きていくには。難しい話かもしれないけれども、これはみんなして挑戦して、将来の御前崎市の子どもたちが大人になったときに、その子どもにも教育できるような、今の子どもを育てなければいけないと思っているから、ちょっと先の長い話だけれども、がんばってほしい。

○司会 ありがとうございます。

副市長さんももしございましたら、お願いいたします。

○副市長（鴨川 朗） 私も初めて、1回目は澤入前副市長と。きょう初めて総合教育会議に参加させていただきましたけれども、お話を伺っていて、スクラムスクールプラン、非常に効果があらわれてきているのだなということを実感いたしました。小学校の先生方とか中学校の先生方とかがお互いに情報共有したり、勉学のみならずいろんな面でお互いを信じてよい成績につながる、あるいは社会性が身につく、そういったものが現実として身を結んできているなというふうに感じました。先ほどの先生がおっしゃった学力テストの結果が上がったということもそのあらわれであると思いますし、今後さらにそれが伸びていってくればなというふうに強く感じました。

1回目の資料をちょっと見させてもらって気になったのが、ひとり親世帯が非常に多いなという気がするものですから、その方々にこういった家庭へのこういった活動の浸透がうまくいく方法はないのかなということを非常に感じました。さらに、この会議を中心にスクラムスクールプラン、それから地域との連携のスクラムプランが前進することをみんなで考えていければいいなというふうに強く感じました。

以上です。

○司会 ありがとうございます。

それでは、本当にここからは自由な意見交換ということでお願いをしたいと思いますので、委員の皆様、市長も含めましてお話をいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

○市長（柳澤重夫） 教育長さん、何かあるのか、問題点が。

○教育長（篠田暁美） 今日は、市長さんのお考えは、もうこの間から本当に人間を育てていただきたいという本当にありがたいお話で、いつも市長さんがおっしゃられることが、テストより生き抜く力とか人間力とか、そういうことを御前崎市の人は子を育ててもらいたい、すごくありがたいお話だと思っています。

今日は、具体的にではどうしていくかといったときに、今学校、園のほうは、スクラムスクールプランで教員と、子ども観とか、そういうのをそろえていながら御前崎型、園小中一環型の教育を進めているわけですがけれども、実際市でこういう話し合いが、御前崎市の子どもをどうするのだという話し合いが市市内でもなかなかされなくて、私が前から言っている発達支援センターをこの市はどうしても必要なのだとか、幼児教育係が今度分かれるけれども、なぜ分かれてしまって、そうするともうスクラムスクールプランは、せっかく3年間やってきたけれども指導係だけ残って、園長は行ったり来たりしなくてはならないのか、そういったことという具体的なのが、こういった教育の中で話し合われていかないでどこかで決まっていくというのが、私としてはちょっと疑問に思っているところなのです。御前崎市の子供をどうするのだという、本当に御前崎市の子どものことは考えないこの市の子どもの将来、この市の将来というのを私はすごく心配になるというか思っているのですが、そういったことがなかなか議論されないというのをどうしたらいいのかなというのを少し思っているのですが、運営協議会とかそういうのをやると、保護者の皆さんとか地域の方というのは、本当に熱心に話し合っただけなのですが、機構として、その組織としてどういうふうになるのかというのがなかなか話し合えないので、そこがちょっと私としては、市長さんのお考えを聞きたいなと思っ

ているのですが。

○市長（柳澤重夫） 今回の機構改革の中で、こども未来課が幼稚園と保育園の所管になるということ、所管というかそういうことですね。

それが今言ったスクラムスクールと連携してやっていければということだよ、まず1つは。だから、そこら辺が途切れのない教育をするためには、もうお互いに連携して、いつでも即動けるような、そういった体制が一番大事だと思うのだよね。だから、1つの教育を思ったときに、こっちでは小学校から上は1つでやりましょう。そこのところからまた1つ離れた幼児教育については、またちょっと違うところにあるのなら、またそれもではどうして連携していくのか、これも1つの課題でもあるし、だから教育長言うような、もう市を挙げて一体的に、1つになって取り組めるって、そういう体制づくりが欲しいということだと思っているよね。だから、それがそうなった時にできるかどうかということだよ。市として、町として。そこら辺が疑問に思っているところなのだよ。どうして連携していくのか、ちょっと私にもその想像がつかないので、どういうふうにしていくのか、今のところわからない、それどうして連携していくのか。こども未来課と分かれたときに。

○教育委員（伊藤博之） こども未来課ってよくわからないのですけれども、何なのですか。どういうところからその未来課というのが、では学校教育課があるとか、そういった教育委員会があるのだけれども、新しくこども未来課というのが何か生まれてきたみたいなののですけれども、それはどういういきさつで生まれてきて、どういうところから発生してきているのか。必要性があって生まれてきたとは思いますが。

○市民部長（河原崎悦男） 平成25年に議会のほうからそういう提言もいただきまして、その中でまずはこども未来課という名前がまずついて、福祉の中にあったものが、一部子どもに関する部分のものはこども未来課でやるようになって、福祉は福祉になったのですけれども、一番のものは、議会のほうから子どもに関するものをこども未来課というのをつくって、名前は別ですけれども、そういうのが一番の事の発端は、そこから出ているお話です。議会のほうから出ているのです。

○市長（柳澤重夫） もちろん福祉の関係だけれども、ただ、そのときにはスクラムスクールプランはなかったんで、今まではよかったのだよ、こども未来課でも。助成であるとかそういったことをやってただけで、今回スクラムスクールプランをやるについて、やっていくについてどうかということだよ。そのままでいいかだよ。そういうことではないの、教育長。

○教育長（篠田暁美） 平成25年に議会から言われて、もう25年の11月にはスクラムスクールプランというのを打ち出して、26年にはスクラムスクールプランを打ち出しているのです。残念なのは、こういった御前崎市の子どもの実態をどう捉えて、どういうふうに市でしていくのかということよりも、手続とか議会から言われた保護者の利便性とか、そういうことの思いになって、本当は私は発達支援センターとか、そういうことも含めて、もっとここに発達障害の子が非常に多いとか、困っている親御さんが非常に多いということから、そういったことを考えていってほしいと思っていたのですけれども、子どもに関するものをやるということは、一体子どもに関する何をやるのか。手続とか補助金ですとか支援のお金とか、そういうことの手続なのか、教育まで含めたことをやってもらえるのか、そういったことについて議論がなかなかされないというのが、そこがちょっと残念というか、そこら辺の市長さんのお考えをお聞きしたいなと思っていて、この市の子どもたちをどういうふうにしていくのだということをお聞きしたいなって、厳しいようですけど、ちょっと具体的にどうするのかという、もしこども未来課に園のほうの係が移るとすると、これから教育委員会が園訪問とかそういうのも当然なくなってくるでしょうし、園長先生はあっち行ったりこっち行ったりで、こちら側の要求とまた調整を図るのにどうしていきのたろうという、薄まっていくなという感じはちょっとしていますけれども。

○市民部長（河原崎悦男） 今教育部長がこちらにいらっしゃるのですけれども、今言ったこども未来課の中にある程度子どもに関することを集約していきましようということで今進んできているわけなのですけれども、それで今教育長が言った幼稚園とか保育園の関係ですけれども、全てそこに来る

ということではないと私は理解しております。それで、教育部長さんも今のこども未来課の課長のほうともお話をさせていただいて、今持っている業務の中のどの部分をそちらに、この部分はこちらにという話はさせていただいていると思いますので、その辺については、教育部長のほうが詳しいと思いますけれども、事務的なものは、多分今のこども未来課のほうにある程度来て、現場サイド、そちらにつきましては現状でお願いをしていくという、ちょっと自分のほうではそういうことで理解しているのですけれども、その辺は教育部長のほうが打ち合わせしていただいているので、詳しいと思います。

○教育長（篠田暁美） それは理解しています。理解しているのですが、私が言いたいのは、手続きとかそういう事務的なものとかというのはわかるのですけれども、発達支援センターも含めて、なぜ他市がどんどん発達支援センターができて、そういったことができ上がっていくのに、この市がいつまでもそういうことが論議されないとかというのは、私としては、論議してほしいなというのをずっと訴えているのですが。保護者の要望からも、相談に行く場所がわからないと。どういうことをどこに相談に行ったらいいかわからないというのを、もう少し市として一本化か、そういうことが教育として話し合えるということがなかなか、そういう場がなかなかわかってもらえないというのが私としての意見です。

○総務部長（植田直仁） 成長支援の関係は健康づくり課が今担当していますので、それも含めて今度はこども未来課のほうに。

○市長（柳澤重夫） 発達支援センター。

○総務部長（植田直仁） 支援センターというか成長支援の関係は。それも含めてこども未来課に集約してということ。

○教育部長（伊村衛） 具体的には新野こどもの里の事業は、今健康づくり課からこども未来課に移っていくという予定です。

○市民部長（河原崎悦男） こどもの里そのものも今までも健康づくり課のほうでやっていたものですから、それをこども未来課のほうに移管していくと、そういう形で今進んでいます。

○市長（柳澤重夫） では何、今教育部長が知っているとおっしゃったけれども、では例えばその事務的ないろいろな補助金であるとか手当だとかはこども未来課で、それ以外の例えば園の運動会であるとか開園式というのだから卒園式とか、そういうのはこのままで行ってしまうとこども未来課でいかないといけなくなるかもしれないが、そうではなくて、そういった面については教育委員会のほうがやると、そういう話なのか。

○教育部長（伊村衛） 基本的には今までの指導、幼児教育指導員という職員もいますけれども、その方も学校教育課に配属をして教育委員会に残していただきたいと。残していくというような話もしています。また、園に対する指導も教育委員会がそういった指導につきましても、今までどおり携わらせていただくと、そういうことで打ち合わせはさせていただいております。ですから、今事務処理上という書類を出したりとか、そういった手続につきましては、こども未来課さんのほうに移りますけれども、指導ですとかそういった中身については、教育委員会がスクラムという形で今までどおり進めさせていただくということで話はしております。

○市民部長（河原崎悦男） 現場に関することは、今までどおり何ら変わらずにお願いしていくと。それとか人事とかそういうものも事務的にはわかりませんので、そういったものは今までどおりお願いをしていくという、そういうような打ち合わせでいいですね。

○教育部長（伊村衛） はい。

○市長（柳澤重夫） 今までどおりということであるなら、それはもうそのまま教育委員会でやるということだな、幼児教育は。

○教育部長（伊村衛） ただいまの形とするとそうなりますが、なかなか両課にまたがるようになるものですから、少し今までどおりうまくスムーズに行くかなというのが心配は若干残っているという、教育長のそういったご意見だと思います。

○市民部長（河原崎悦男） それはやっぱり、子どももちろんそうなのですが、職員もスクラムを

組むしかないので、ここはやっぱり横の連携をとって、必要ならそういう打ち合わせをします。それが必要ではないですか。

○市長（柳澤重夫） それができなければスクラムは成り立たない、一緒にやらないと。

○教育長（篠田曉美） でも、そういったことが、こういった教育の子どもたちの実態とかそういうことをみんなで話し合って機構改革をという、私はそういうふうに願っているのですけれども、こういう場でしか言うところがなかったというか、そういったことを機構改革のことはよくわかりますが、そういうことを教育委員会としてこういう実態がある、今御前崎市の子はこうしなくてはならないのだというところを、なかなか教育の観点で話し合う場がなかったので、横の連携とるのはわかっていますし、仕事の内容もわかっているのですが、こういったことをどのぐらい理解していただけるのかっていうことを私はちょっと懸念をしているというか、特に御前崎市の実情というのは、やはり家庭的に問題を抱える家庭が非常に多い。それは他市に比べて割合から、不登校の数からいっても非常に多い。そうしたことを根本からもう少しみんなで話し合っていく場というのを市ではできないものなのかというのはちょっと思っていたのです。機構はわかります。考えもわかります。こうしたいというのわかりますが、そういうことを吐き出す場がなかなかないのをちょっと思っていました。

○市長（柳澤重夫） こういうところでしかそういう教育議論というのはなかなかないのだよね。あるのか、ほかにこういう教育を、例えば部長クラス、課長クラスが今までやったことがあるのか。これは、教育のこういう話は、余りしたことがないのだよね、全体では。こういう場しかない、今までね、実際のところ。腹を打ち明けて話すという機会が。こういう話の中でそれを小さいことを盛り込んでいかなければいけないのだよね。

○副市長（鴨川朗） 今年からできた総合教育会議ですから、今までなかったですね。

○市長（柳澤重夫） こういう話今まであったか私知らないけれども、この会議というのは。なかったの、今まで。

○総務部長（植田直仁） この会議は昨年から。

○教育部長（伊村衛） この会議につきましては、平成27年度からスタートしまして、27年度には教育振興基本計画ですとか、教育大綱、そういったものをまとめさせていただいて、今回今年は2年目となります。

○市長（柳澤重夫） いいことではないの、こうしてみんながぶつけ合って話をするというのは。決してマイナスではないし、プラスにはなっている。今教育現場で抱える問題もいろいろお話を聞かせてもらって、これは教育委員会だけで抱えるものでもないし、私らも一生懸命になってそれを支援しなければいけないし、またやりやすいようなことを考えていかなければいけないと思うし、ここだけではなくて先生も全部含めた話だね、これは。教師も。だから、御前崎市の教育というのは教育委員会が指導して、先生をどういうふうにして指導してやっていくかということが大事な話なものだから。

教育長、では今言ったようなこども未来課については、その諸手続についてはこども未来課でやって、教育部門については、スクラムスクールプランが崩れないようにやるという話だけれども、そこら辺はどうだろう。

○教育長（篠田曉美） それは、やっていくしかないとは思っていますが、前から私が言っているように、園長先生方は大変だろうなと思います。施設はそちらに行き、指導はこちらに来るという、一番園長先生、副園長先生方が苦勞なさるのではないかなというのはちょっと思っています。施設も含めた教育を今やっているところですので、奈須先生に入っているのは……

○市長（柳澤重夫） その諸手続、幼稚園、保育園の諸手続というのは、こども未来課に行かないとしないのか。その教育委員会ではなくて。今言った先生が、幼稚園、保育園の先生がその園の諸手続というのは、こども未来課へ行って手続きしなくてはならないのか、従来どおりの方法でいいのか、教育委員会のほうでいいのか。こども未来課というのは、いろいろなその補助金とかこれからの。そういったものをやってもらおうと思っていたので。

○市民部長（河原崎悦男） 1つには、先ほどの教育長さんがおっしゃったように、保護者の方の、当然そういった手続き的なものもそこに行けば、子供に関することの相談とか手続きとかかわかると。そうということが先ほど教育長がおっしゃったように、保護者に対しての利便性というのは当然考えていますので、そういったことも含めた中で今言ったような形を、手続き的なものとか、もちろんそういったもっと小さな、そこで扱うのは生まれてくる小さな子どもさんからの形になりますので、手続き的なものも当然その保護者の利便性を図るというのは、結構大きな要素かなというのは確かにあります。

○市長（柳澤重夫） 園の先生の諸手続きというのは、では今までどおりその教育委員会でやるということだよな。

○教育部長（伊村衛） そうです。人事の問題ですとか指導については、教育委員会が担当させていただきます。

○市長（柳澤重夫） そういう方向で決まっているわけだね。

○教育部長（伊村衛） 打ち合わせの中ではそういう話をさせていただきました。

○教育長（篠田曉美） そうなのですけれども、そういったことが部長会議で決まっています、こういった話というのはなかなかできないのですよね。だから部長さんには申しわけない。伊村部長が悪いわけではなくて、伊村部長とはよく話しているのですけれども、こうしたことが部長会議で決まってくるというか、一昨日も教育委員会が1階に行くというのは私も部長から聞いて、私は不在だったというか、そういったことはどこで決まってくるのかというのがなかなかわからなくて、実際は教育の問題というのは、子供の実態とか家庭の実態をもっと皆さんに知っていただきたいと。本当に御前崎のことを考えていかないと、将来の子供たちがここの市を背負って立つという、ちょっと私は深刻に考えているのですが、そんなに深刻に考える必要はないというならばいいと思うのですが、少しいろんな学習状況の質問事項を見ると、深刻にならざるを得ないデータが出てくるものですから、点数ではなくて、そういうことも含めて、市全体で子供のことをどうするのかということをもっと考えていくことはできないだろうかという意見です。市長さんのお考えはよくわかっているので、それを具体的にどうしていくかという、だから家庭に入り込みたいのですが、なかなか難しい、ここの家庭は入り込めない部分がありまして、そういったことを発達支援センターも含めて、どういう機構改革をしていくのだろうかという、そこがずっともやもやとしている。そういったことを、では発達支援センター、新野の里とどうしていくのだという意見を述べる場がないのです。どこかで決まってくるので、そこがちょっと残念というか、こちらの意見も聞いてもらえるといいのですがということです。

○総務部長（植田直仁） 決して部長会の中で決めたわけではないですので、部長会の中で案を練って幹部会に上程して、幹部を初め執行部を交えた中で検討した結果ですので、それで前回のとき私もから経営者会議というのがあるのですから、経営者会議の中で、部長の案を練ってくださいという提案をさせていただきました。その中でやっていただければ、教育長さんも当然いる席ですので、教育長さんがおっしゃることもこの席で言ってくればいいと思います。決して部長が、部長の中で決めたことではありませんので、そこはちょっと考えが違ふと思いますので、よろしくお願いします。

○市長（柳澤重夫） そういうこれからそのちぐはぐにならないように、お互いに連携して話をできる場をつくらなければいけないし、そういったことも踏まえてこれからそういった執行部と部課長とこういった教育委員会と、そういうのを真剣に考えながら進んでいかないと、教育委員会も大変な話なので。そういった市の方向性というかそういったものの裏づけがあつて初めて思い切ったことができると思うのだよね。そういったことをやっぱりやっていかないとまずいと思うよね、これから。ですので、これからこの会議も何回やっても悪いものではないので、機会があるごとに、何か課題があったらまた開いてもらってやったほうがいいと思う。なかなか判断できない場合もこれからあるかもしれない。みんなで相談しながらよりよい方向へ持っていけるような、そういった会議なり委員会なり開いていきながら、また執行部の話ももちろん仲間に入れてもらって。そういうことでマックスでさせてもらって、改善すべきものは、全てが改善していくような、そういった体制づくりだけはして

いきたいと思います。これからまだまだ今年度も半年たったばかりだから、これからの推移を見ながら、改善すべきものは改善して、そういった方向でいきたいと思います。

また、積極的に皆さんからのそういったご意見伺いながら、現場の教育というのはこんなものではないと思う。もっともっと厳しいところですので、こういったここで議論しながらやらないとなかなか、家庭まではもちろん入り込めないけれども、家庭を動かすには相当こっちも腹をくくって議論していかないとなかなかできないと思う、それは。

○司会 ありがとうございました。

今組織といったような問題も議題になっておりますけれども、そういったことも含めまして、それ以外のことでございますけれども、委員さんのほうから何かございましたらお願いしたいと思います。

○市長（柳澤重夫） もう全体が、中学校の全体が悪いわけではなくて部分的に悪い部分があるかはちょっとわからないけれども。もう、いじめ、暴力というのは、もう少ないのでしょう、今。中学校のほう。

○学校教育課長（長谷川延明） 以前のような授業をさぼったりとか、そういうことは少なくなりましたけれども、粗暴行為というのは増えています。以前、喫煙が多かったりとか、そういうことがありましたけれども、そういうことはだんだん、だんだん少なくなってきた、友人との暴力だとか対教師暴力だとか、そういうようなことは若干、これは全県で言えることですが、小学校も中学校もそれは本市でも増えているということが状況です。いじめについては、やはりLINEで、スマホを使ったりとかそういったものを使つての誹謗中傷ということがここ数年増えているという、そういうことが現状です。

○市長（柳澤重夫） 中学校の生徒は、今ここで急に変えるというのはなかなか難しいもので、昔浜岡町のときには、厳しく優しく温かくという、そういう標語を各家庭に配ったことがあるのだけれども、そういった厳しいときには厳しくやらないと、逆に先生が、中学校になると先生が生徒に怖いという、そういう先生になっても困る。生徒に怖いというか、そういう先生も中にはあると思う。それと保護者に怖い、怒ると保護者に怒られる、そういう先生もあると思う。だから、そういったことが絶対ないように、先生にはしっかりとした指導をしてもらわないと、多分先生もそうした人があると思うよ、生徒に怖いとか、保護者に気を遣っているような、そういった先生では絶対教育できないと思う。そういう先生の信念でびしっとやるように、そういう先生でないと。そういうふうに思っていたけれども、昔四国に多度津という町があるのだけれども、もう暴力であるとかいろんな非行とかいろんなものでもどうしようもなかったと。多度津中学校が、そのときに氏家という校長先生がいて、その校長先生がもうどうにもならないものだからもう、中学校の生徒、裏の竹やぶを開墾して芋畑にした。それで、その子どもたちにみんな学校のカリキュラムの中で芋畑をやらせた。保護者からもものすごい批判があつたらしい。とんでもない話だと、勉強を教えないで芋をつくるとは何事だと。それを氏家校長というのはもう徹底的にやったわけ。そうしたら子どもたちがみんな、普通の生徒は植えている、だが、そういう非行の子どもというのは、だめな子どもは絶対これやらないのだってね、仕事を。参加しないのだという。やっぱりそれをずっと続けたときに、何で自分だけ、僕はそれを見んなと一緒にできないのだということを気づいてきて、だんだんその子たちも一生懸命やるようになった。それでみんな一生懸命やって。それで、ものすごく成績が上がった。こういうことも現実にあったので、これは四国の多度津に聞いてくれればわかるけれども、こういう現実もあるので、だから生徒と一緒にこれをやるというのは、そういったものも担当に分かれて、何かクラブをみんなと一緒にやらせないといけないと、僕もやらなければいけない、そういう方法もないことはないと思うよね。ここを1つの勉強でやるのか社会教育でやるのかちょっとわからないが、そういったグループでここをやらせて、できなければ自分は恥ずかしい、そういう思わせてやることもその中にはあってもいいのではないかと。それは昔の話なもので、今通用する話ではないけれども、本当にいずれにしても、そういった子供を直すのは難しいと思う。

○教育委員（伊藤博之） 1ついいですか。池新田高校を卒業して社会、大人にみんながなっていくわけなのですが、そのときに、今の浜岡中学生の子供たちの力で、かなり大人になってから苦労をするのではないかと思いますので、近々の課題として、自分が思うのは、その基礎、本当の基礎基本をもう一回小学校でもう完璧に覚えられることがまだ覚えられていない状態が多いので、その辺をもう少し先生方をつけるとか何かいろいろな手だてを加えることによって、例えば九九ができない子、九九を完璧に覚えるとか、国語の勉強の力をもう少しつけてあげたいとか、そういったものがないと本当に社会に出てから自分たちが恥をかくというのが今の子供たちにすればわかってはいないのです。ですから、そこら辺をもうちょっと教育委員会として手を打ってあげられればまた違うのかなと思うのですけれども。

○市長（柳澤重夫） もう本当に昔から読み書きそろばん、私らも子供時分そろばん塾があったので行けと言われて、こっそり抜け出したりしたけれども、本当に読み書きそろばんは基本なもので、今何と言っている、算数とかいっているのか。もう低学年のときに、今九九を知らないという子供はないと思う、あるのか。

○教育委員（伊藤博之） そうですね。高校の先生に言わせるとやっぱりそういうのがあって、高校へ来てからもそれをもう一回最初から教えなくてはいけないということをとっているようなので。

○市長（柳澤重夫） そういう生徒が入学できるのがおかしいのではないの。

○教育委員（伊藤博之） そうですよ。ですから、そこはどういう具合になって入学できたのかはわからないのですけれども、そういうことがありうるので、ちょっとその辺をしっかりと手を打っていないと。

○市長（柳澤重夫） それは、小学校の段階で、思い切って教育委員会の方針として、この年齢までにはこれとこれだけは完璧に覚えさせる、そういった教育をやるのも一つの手と思うよね。科目を決めて。これだけは基本的にあれだ。国語であっても文章力であるとか、国語ができれば多少英語もできるようになるかもしれないし、そういったことも含めて方針を出したほうがいいかもしれないね。ただ、全体をよくしましょうというよりも、では基礎だけはしっかり覚えさせましょうという、絞って。ある程度の基礎がわかっているれば社会へ出てから、職についたときには、その職のことを現場で一生懸命勉強すればいいと思う。完璧ではなくても。私は、そんなに基礎だけしっかり覚えていけば、あとはその自分の仕事についたときに、会社に入るための勉強をすればいい、また入ってからも勉強すればいいと思う。それは私の考え、間違っているかもしれないよ。いずれにしても、社会に出たときの勉強はしていたほうがいいよ、会社員であっても、役場の職員であっても。勉強したことが全て通用するかと、職場に。そればかりでもない。だから、そういったいつまでたっても勉強は大事なもので、それを覚えるというのは。

○副市長（嶋川朗） しおかぜ先生もやっぱり増員するような、実施計画にそういうような形で、教育もある程度生徒さんを35人以下とかと、そういうことも含めてやっていく方法がいいかなと思うのですけれども。

○教育委員（伊藤博之） よろしくお願ひいたします。

○市長（柳澤重夫） 今年から御前崎市教育元年として思いっきりやって下さい。

○教育委員長（吉村 勝） 教育も昔は、言い方を変えると上意下達のような感じで浸透していったのだけれども、世の中がやっぱり進んで複雑化してきたものですから、それだけではやっぱりだめなのですよね。いろんなところへあやをとりながらやっていくというか、そういうようなところも出てきているものですから、私たちも非常に歯がゆい面があるのです。歯がゆい面が。この前もちょっと視察させていたときに、やっぱり若い教員の育成をやっぱりもう一回見直すというか、そういうことも必要だなと思いました。余り理想だけを追って教員を育てるということも、それはそれで大事なわけだけれども、そうではなくて、その一番の根底、教師としての根底に必要なものは何かということは、やっぱりもう一回問い直して、やっぱり育成の手だてをしていくということも必要ではないかなと、話をしました。

それから、さっきの機構の問題だけれども、最終的にはやっぱり子供や保護者に返っていくことなものですから、教育長さんがお話ししたようなことも、ぜひまた市長さんを初め執行部の皆さんにもう一回ちょっと見直しをしていただいて、それでいくというならば、それはそれで結構なのですが、ぜひ1度は、やっぱりあり方をちょっとご検討していただければありがたいかと、こういうふうに思います。

○司会　お願いします。

○教育委員（田代富美子）　私キーポイントに協働というのを大事にしたいという思いがあるのですが、今のお話を聞いている中で、例えば今九九ができない子もそのまま行ってしまうと、何で高校に受かったのだから市長さんおっしゃって、そういうようなことが現実には起こっているのですが、例えば私たち委員は、入学式とかいろんな場所で、本当にちょっとだけ挨拶をさせていただくことがあるのですが、例えば小学校の入学式で、9年間たったその後の中学を卒業する姿まで責任を持っていたきたいという話を言葉としては出すのです。でも、わかったって頭の中で聞いて、ああそうだね、責任持っていかなければだめだよという、わかるのだけれども、ではそのことができていくかというと、それができていないというのが、いろんな部分で問題となってあらわれてきていると思うのです。それを何とかしたいと思って考えた一つの御前崎市ならではの御前崎のスクラム教育だと思うのです。さっき言ったような、先生というのは、例えば3年目ですとか5年目ですとかって経験年数は同じでも、本当に何でこんなに違いがあるのだろうかという差がある。それは、市役所の職員さんだって同じではないですか。同じに採用して、でも仕事ぶりを見ていたら、本当にさまざまな部分が出てくると。これ何で生まれてくるのだろうかとなって。だから、先生の場合も最終的には先生の個人の力量にかかる。受け持ちの先生、それを教えている先生の力量がついていないからだによって、個人にいつも戻ってしまっていくと何にも進んでこないと思うのです。そういう個人を力づけていくために構造を変えたというのがこの方式だと思うのです。スクラムのやり方。それまでは各学校単位、園単位でいろんなことを教育目標に向かってやってきていたのだけれども、さっきお話があったように、スクラムを組む構造を変えた、研修を幼保、小中高までの人たちが集まりながらやった。最初のころは、みんな何気に見ていたのだけれども、例えばこの前なんか行ったら、小学校、中学校の先生が英語の授業を見ていて、終わった後に話し合っ、て、高校の先生にこのことについては聞いてみましょうというような声が出ているのです、話し合いの中で。そうすると高校の先生が、それはこんなふうにしたらどうですかということがあったりとか、それから中学校の社会科やったときに、本当にあんな提示の仕方で子供は興味を示すかっていうような思いがあったときに、「それはおかしいんじゃないですか」と言ったら、今度はほかの中学校の先生が、「じゃああなたならどんな提示の仕方をするんですか」というような話し合いがされていって、私はこうやってその小さな集団の中ではなくて、自分と異なるものと一緒の中で意見をディベートし合うことによって育っていくのだなというのをすごい実感したのです。その中の部分だけはそこに示されたと思うのです。

市役所の職員の皆さんだって同じだと思うのです。各課に異動されるではないですか。でも、1つのところにいられるのは数年ぐらいとかとって、教育委員会にも初めて来ましたという部分もあると思うのですけれども、でも違う意見の人と自分の考えを話し合いながら変えていけるようなふうに見える子はいいいですよ。でも、なかなかそういうふうには思えない子もいる。そういうのを構造改革した中で、いや意識を変えていくということがすごい大事だ。その実現がこの御前崎のスクラムのやり方だと思うのです。

視察を東京へ行かせていただいたときに、小中連携一貫校というのも何校か見せていただいたのです。それは、敷地がすぐ近いし、教育課程もいろいろやってということなのですが、御前崎市には御前崎市の特性があると思うのです。ですから、この構造を変えて意識を変えながら、御前崎の市を担う子供を育てていきたいといったところに、やっぱり教育委員会だけではなくて、全市の職員の皆さんも、やっぱり市長さんがおっしゃるように、人づくりが土台になってまちがつくられていくと思うので、ぜひ意見を戦わせながらも行動を変えて、御前崎市民、未来の御前崎市民になるようなものを

つくっていききたいという思いで、共有して一緒に働いていていただきたいなというのをすごく強く思っています。

○司会 ありがとうございます。

(2) 浜岡中学校改築検討委員会について

○司会 本当に議論尽きませんけれども、1つ目のスクラム教育につきましては、この辺にさせていただきまして、次の浜岡中学校の改築検討委員会についてということで進めさせていただきたいと思います。

まず、改築検討委員会の委員長でいらっしゃいます吉村委員長さんから状況ですとか経過報告等をお願いできればと思います。

○教育委員長（吉村 勝） 少し改築検討委員会のことにつきまして、今までの流れの中での主なことを少し拾い上げてお話をさせていただきたいと思います。

今までに3回検討委員会を行いました。それから、1回は全体で視察研修ということで、山梨県のほうの学校、小学校と中学校を見せていただきました。それから、先日は教育委員の研修を兼ねながら、やはり小学校と中学校の校舎を見させていただいたということでもあります。それで、そういう中でどのような話をして進んできたかという、改築の理念といいますか、一番やっぱりもともになるのは、やっぱり子ども供たちの学習の効率性を高めるという、そして学校生活が安心安全で送れる学びやをつくるという。それからもう一つは、やっぱりある程度教育も根本は変わらないけれども、その時代によって若干の学習の仕方というのが少しずつ変わったりしてきます。そういうものを今の時点で予測できる範囲で受けとめて、それに柔軟に対応できるような学びやをつくりたい。これが言うなれば理念であります。

そういう中で出てきた、今までの出てきたことをちょっとまとめますと、学習環境の面では、やっぱりある程度ゆとりのある空間を持ちたいという、校舎です。教室とか廊下とか昇降口とか、そういうようなところをやっぱりゆとりのあるきちっと決まった中で、よりよいやっぱり子どもたちが精神的にも落ちついてできるような、そういう校舎でありたい。それから、当然ですが、充実した学習設備といいますか、例えば全教室にテレビはもちろんですが、インターネットの配信とか、そんなようなことを考えている。それから、子どもたちの動きがやっぱり無駄のないような動きができるようにしていきたいという、動線の効率性というのですか、例えば昇降口から教室への動きとか、教室から体育館への動きとか、そういうものもやっぱり考えていく必要があるのではないかと、若干こらは私の意見も入っているのですが、そういうようなことです。

それから、もう一つは、やっぱり学習として地域住民との交流の場を設けたい。それと、これは学習のほうに入れていいのかどうなのかちょっとわからないのですが、やっぱり生徒と地域住民が誇りとする校舎にしたい、学びやにしたい。それにはやっぱり校舎の景観美というのも必要だろうと。そういうようなことで学習環境。

それから、生活環境のほうは、やっぱり先ほど空間ということを言いましたが、潤いをやっぱり与えるような学校でありたい。緑をたくさん使ったり、中庭を活用したり、あるいは十分な採光を取り入れて明るい学校にしたいとか、そういうようなこと。

それから、もう一つは、健康で清潔感があるような校舎。特に、話題になっているのはトイレのあり方です。それから、これは全く私の私見ですが、やっぱり中学生はこれから先、男女別のやっぱり更衣室というのはもう絶対不可欠だと思うのです。そういうものも入れていったらどうかと思います。

それから、もう一つは、やっぱり先ほど言った安心安全の確保という面で考えていかななくてはならないだろう。出ていることが、防犯用のカメラを設置、防音もしたりとか、それから免震装置で地震等に対応できるようなもの、地震あるいは津波等の緊急避難場所としての対応、あり方もやっぱり

考えていく必要があるだろうと。

それから、体育館については、またちょっと後から言いますが、やっぱりこれも1次避難までできるような施設を中に盛り込んでいく必要もあるだろうと、こんなようなことが、大まかですが出ているところです。

そのために、こういうようなことをするためにコンセプトとキャッチフレーズをやっぱりきちっと決めて進もうということで全回話し合って、今度10月26日にはこのことについては、きちんと決めていくというようなことが出ております。

その他として、今まで私たち出発の時点では、体育館とプールは既存のままのものを使っていこうとしたのですが、話し合いの中で、やっぱりそうすると仮校舎をつくらなくてはならないだろうと。仮校舎をつくるとなると、計画では今度入ってくる子どもたちは、今の小学校6年生ですね。3年間仮校舎で授業をしなくてはならないというようなことになる可能性が強いわけですから、それよりもやっぱりプールは非常に老朽化していますし、体育館も先ほどの1次避難所のことを考えたら、これはやはり撤去するというか、もう一回体育館はつくり直していただいたほうがいいではないかというような意見が圧倒的に出まして、そういうことで今は進んでおります。

プールは新築しないと。新しくつくらないと。中学校の工事の中にはプールはつくらないと。では、教育課程、学習指導要領の中に、中学校の体育の中で水泳授業というのがあるわけです。それはどうするかというと、既存のやっぱりプールを使うと。それは、ふるるを利用するという、そこはオールシーズンですので、そういうことで、もう学校の中にプールはつくらないで、そちらを使ったらどうかというような意見であります。

そんなところで進んでおります。まだまだ具体的には、例えば校舎の縦の位置をやっぱり早く決めないと、それから何階建てにするのか、それから空間って、教室はちょっと大き目に広くとりたいと言っているけれども、補助金との関係はどうなのかなとか、そういうこともやっぱりきちんと押さえながらやっていかななくてはならないなと思っておりますが、若干進み方が皆さんの意見を聞きながら進んできているものですから、少し遅れがちになっているのかなと思いますので、これからはある程度事務局提案をしながら委員会のほうを進めていって、進度をちょっと早めたいなという思いでおります。そんなことで、そこで決定ではありませんが、一応代表で集まっておりますので、意見としてまた執行部の市長さんを初め副市長さん等にご意見を聞きながら進めていきたいと、こんなふうに思っております。

ちょっと長くなりました。

○司会 ありがとうございます。

改築検討委員会のこれまでの経緯ということでご説明をいただきました。中学校の改築に向けましては、市長の方策というか思いというのもお伺いしております、本当に温かみのある、緑等があって、それから曲線、そういった見た目というのでしょうか、形にもこだわった、本当に子どもたちのためになる施設をつくっていただきたいという強い指示をいただいたようなところでございます。

それでまた、体育館、プールの話が出ましたけれども、こちらにつきましても、こういったご意見が大きいということで市長にご相談をさせていただきまして、市長も、ではこの際、体育館、プールも同時施工で行っていいといったご指示をいただきましたので、この後議会のほうにもそういった方向を説明をさせていただく予定でおります。

市長、今のお話で何かございましたら。

○市長（柳澤重夫） 建築検討委員会の皆さん、大変熱心にご審議をしていただきまして本当にありがとうございます。徐々に煮詰まってきたかなという感じがするわけですが、私どももずっとこの議会のときにも文教厚生委員会で県外の校舎の視察、教育現場の視察も度々やってきたわけですが、そういった中で今回建設に進むということでありますので、いろいろな県外の校舎を目に浮かべますと、ある程度こういったものが欲しいなというものがありますので、そういったものを今具体的

に絵をこうしろというのはありませんが、そういったものをつくっていきたくて自分でも思っていますので、今吉村先生からお話ありましたような潤いのある校舎、木々の緑もあるような校庭、そして角張った校舎ではなくてもっとアールを取り入れたような温かみがある校舎、そして御前崎市民が誇りに思えるような、そして卒業生が卒業してからでも母校を誇りに思えるような、そういった校舎をつくっていければなというふうに思っております。

そういった中で、せんだってでも議会のほうでその教育部長からいろんなお話を聞いたようでありますが、議会のほうでもコンセプトはどうするのだというような話もあったわけですが、そのときにはそういった思いをお話をさせていただきます。そういった中で、ではレイアウトをどうするかということでもありますので、レイアウトについて、なかなか体育館と校舎があると、プールがあると、なかなか描けないというような状況にありますので、今の校舎をまず生徒に使っていただいて、その中で新しい校舎をつくって、それで入っていただくというのが一番いいのではないかと。逆に今の体育館とプールを置いて仮設校舎をつくるとなりますと、相当な数億円という、それだけでお金かかってきますので、いずれにしても体育館も今の中学校の校舎とそれほど差がないわけでありますので、建築の。ありますので、いずれはやらなくてはならぬ。それならいつその際、そういったものも含めてやったほうが将来的にはコスト安になるのではないかとというふうにも思いますし、またプールにつきましても、周辺のもしプールを使わせていただけたら、周辺プールの____ができるということでありますので、逆にプールを夏の間は使うよりもコストも安くなるのではないかとということもお聞きしておりますので、それを一体的に今の体育館を、今お話ありましたような広域避難所、これも今なっておりますが、さらに防災を兼ねた、地域の皆さんがよりどころとなるような、災害のときにはそういった避難所として建設すれば理解が得られるのではないかと、こんなふうにも思っておりますので、思い切ってこの際一体的な解体と、また体育館ですね、それと校舎、こういったものをレイアウトを兼ねながら、それができないとまたコンセプトもなかなか変わってきますので、そこら辺も運動場の位置を、では配置をどうするのかということにもかかわってきますので、そこら辺をまず第一に、体育館とプールを撤去して、そのところでその校舎をレイアウトしていく、こういった考え方でぜひやっていただければありがたいと思っておりますので、また18日の委員会のほうにはそういった思いであるということを説明していただければ結構だと思います。

○司会　ありがとうございます。

検討委員会委員さんとして出ていただいております伊藤委員さんから何かありましたら。

○教育委員（伊藤博之）　大変にいろいろ皆さんの意見、あっち行ったりこっち行ったりする中で、調整をしながら今吉村委員長がまとめられたような形にだんだん仕上がってきているのかなということがあります。先ほども市長さんがお話の中で、アールにするというようなこともありました。アールにするとはっきり言ってお金がその分だけコストアップにはなるのですけれども、一部アールをとり入れながら施策を取り入れてコストを下げるとか、そういったものもまた具体的にだんだんなっていくのではないかなと思いますので、そういう中で進められればいいかなと思っていますので、そんな中に出席させていただきまして、うれしく思っておりますので、またよろしく願いいたします。

○市長（柳澤重夫）　せんだって5階建てでも6階建てでもきれいにやってしまうと、ビルを。そういった合板を組み合わせたもの、物すごい強いらしいのだね。そういったものもちょっと割高だけれどもあるということで、別に外壁まで木造でやるつもりはないけれども、コンクリでいいけれども、そういった物すごい強度の強い板もあるということで、ではそういったものを壁面に使う所があれば使ってもいいし、これ仮定の話だよ。そういった……

○教育委員（伊藤博之）　そうですね、やっぱり木を使うことによって温かみが出ますので、教室の雰囲気なんかかなり変わると思います。それが大変いい思いだと思いますので。

○市長（柳澤重夫）　これは皆さんでいろんな内装というか建物がどんなものがあるのか、もう一目見て外観一目で玄関見てあっと思えるような、ちょっと何というか、よその町が逆に視察に来れる

ような校舎にすれば生徒たちもまた気持ちも変わってくと思う。そこにいる生徒も、外部からみんなが来れば、そういったみんなを引きつけるような、市外の人が見学に来るような校舎にすれば、また生徒の気持ちも変わってくと思うし、そこら辺でお願いできればと思います。

○教育委員（紅林幸枝） それこそ先日富山市立芝園小中学校を見させていただいて、とにかくすごい校舎でした。斬新で近代的な作りだったのですが、中に入ってみると細かな子供たちに対する配慮とか工夫がすごくなされている学校で、その学校を見たときに、この学校には未来と希望と夢が見えるなって、すごくそれを思ったのです。やっぱりそういう学校を浜中にもつくってもらいたいというのは、すごくやっぱり感じました。やっぱりそこにいればやっぱり楽しく学校生活も送れる。でも、確かな学力もつく、やっぱりその辺の不登校のこととかいじめのこととかある、やっぱりそこでちゃんと育てていない人間関係とか、そういうものもやっぱり養っていける。やっぱりそういうものも培っていけるような例えば粘り強い気力とか体力とかを持てるような、何か全てに希望が持てるような学校で、それこそ今市長さんがおっしゃったように、ここの浜中生でよかった、浜中の卒業生でよかった。これからやっぱり子どもたち、これから入ってくる浜中の子たちも浜中生になる子たちも、この学校に行きたいなって、親もこの学校に通わせたいな、地域の人たちもいい学校が近くにあるねって思えるような学校、そういう学校をすごくつくっていただきたいな。やっぱり今の、それこそさっき教育長もおっしゃったように、今のやっぱり御前崎市の子どもたちの現状を見たときに、やっぱり子どもも親も変わっていつてもらいたい部分というのがすごくやっぱりそれは思うのです、親としてもすごく思う。だから、それをチャンスにしたいかなという、チャンスに学校が校舎が建って、それをいいチャンスにしたいかなというふうに思いました。

○市長（柳澤重夫） その校舎とか教育環境によって、いろんな面でその心理的にもすごく相乗効果というか、本当に上がってくと思うよね、それによって。だから、決してマイナスにはならないと思うし、せつかくの50年に1回かそれくらいの建て替えなものだから、ずっとその後の子どもたちが使って、誇りに思えるような、また卒業生も社会人になってもまた誇りに思えるような、そんな校舎をぜひお願いしたいなと思います。

○司会 ありがとうございます。

それでは、2番目の浜岡中学校の改築検討委員会についてもご協議をいただきました。

時間も、おおむね予定されていた時間となりますので、そろそろと思いますけれども、全体を通じまして何かほかにございましたらと思いますが。

○市民部長（河原崎悦男） 今の中学校の問題なのですけれども、かなり大きな事業と捉えているのですけれども、現状教育委員会も部長さんも課長兼務という形でやられていると思うのですけれども、その辺私が思うには、もう少しつけていただいて、これに取り組むというのにも必要ではないかなというのがあるのですけれども、もし新年度、これから実施設計とか入ると思うのですけれども、その辺というのは、市長のほうにお願いしていただいて、もう少し人をつけてやるということも必要ではないかなという気がするのですけれども、その辺って、今の状況で回っていくのですか。

○教育部長（伊村衛） 自分の能力の無さもあるかもしれませんが、大変厳しいと自分でも感じております。もし人員を配置していただければ、ぜひお願いをしたいという思いはございます。

○市長（柳澤重夫） またその辺については、大事業だから、なかなか1人で対応するのは難しいので、人をつけてやらないと大変だと思うよ。これはそれからの話だけれども。今私が話したのは、多分部長初めて聞いたと思うのだよね、体育館を壊すというのは。

○市民部長（河原崎悦男） そうです。

○市長（柳澤重夫） そういう気持ちでおりますので、かえって割安になる。仮設校舎を3億円も4億円もかけてつくるよりも、かえって将来的には割安になるし、また今のままであるとレイアウトがおさまらないのだよな、あそこも置いておくと、体育館を。そういうことでありますので。

○司会 よろしいでしょうか。

4 閉 会

○司会 では、本日はまことにありがとうございました。第2回の御前崎市総合教育会議でござい
ますが、以上をもちまして閉会とさせていただきますと思います。

それでは、最後に挨拶を交わしたいと思います。

(起 立)

○司会 ありがとうございました。

(相互に礼)